

■臨床心理学専攻博士後期課程授業科目・担当者一覧

授 業 科 目 等	履修方法及び単位数		開設 年次	担 当 者	
	必 修	選 択			
臨床心理学研究法Ⅰ	2		1	各研究指導教員	
臨床心理学研究法Ⅱ	2		1		
臨床心理査定・面接研究Ⅰ	2		1		
臨床心理査定・面接研究Ⅱ	2		1		
臨床心理学研究Ⅰ	2		2		
臨床心理学研究Ⅱ	2		2		
基礎研究領域	人格心理学研究		2	1	教授 田中 志帆
	教育心理学研究		2	1	教授 谷島 弘仁
	異常心理学研究		2	1	教授 池田 暁史
実地研究領域	心理療法研究Ⅰ（遊戯療法）		2	1	2020年度非開講
	心理療法研究Ⅱ（箱庭療法）		2	1	2020年度非開講
	心理療法研究Ⅲ（認知行動論）		2	1	教授 岡田 斉
	心理療法研究Ⅳ（統合的心理療法）		2	1	2020年度非開講
	心理療法研究Ⅴ（スーパービジョン技法）		2	2	教授 布柴 靖枝
研 究 指 導					教授 布柴 靖枝

（注意）

1. 必修科目は、6科目12単位を修得すること。ただし、研究Ⅱの履修には、研究Ⅰの単位修得が条件となる。
2. 選択科目は、基礎研究領域・実地研究領域の各区分から1科目2単位以上を修得し、合計4単位以上を修得すること。
3. 上記一覧は、2020年6月現在のものであり、2021年度には変更する場合がある。

■臨床心理学専攻博士後期課程研究指導者一覧

教授 布柴 靖枝

専門領域 家族心理学、家族療法、統合的心理療法

研究内容

- ①家族関係・夫婦関係・きょうだい関係と心理的問題の関連
- ②多世代的視点から見た症状の意味と家族神話研究
- ③統合的家族療法・心理療法・コンサルテーション
- ④スーパービジョン研究
- ⑤ハラスメント防止・対応プログラム開発
- ⑥2030アジェンダSDGsと心理・社会的支援

■臨床心理学専攻博士後期課程授業科目名・講義等の概要

授業科目の名称	担当者	授業科目設定のねらいと概要
臨床心理学研究法Ⅰ	各研究指導 教員	臨床心理学における多様な研究法を、「調査研究」「実験研究」「実践研究」に分けることができるが、この授業ではそのいずれかを取り上げ、方法論的吟味を行う。 例えば、調査研究は「質的調査」と「量的調査」に分けることができる。質的調査のデータ収集法として「観察」「面接」「フィールドワーク」があり、データ整理法として「グラウンデッドセオリー」「KJ法」「IPA」などある。量的調査には「尺度作成」がある。実験研究には従来型の「実験」に加え、現実生活の場により近い状況で行われる「準実験」、一人の個人を対象とする「単一事例実験」などがある。
臨床心理学研究法Ⅱ		臨床心理学研究法Ⅱでは、臨床心理学研究法Ⅰにおける方法論的吟味をふまえ、特に学会発表を念頭に研究成果の公表を行いうる能力を身につけることをめざす。さらに、研究遂行上ならびに研究公表上の倫理についても省察する。
臨床心理査定・面接研究Ⅰ		臨床心理査定・面接研究Ⅰ・Ⅱを通して、臨床心理学の主要課題である臨床心理査定および面接について、理論的かつ実践的な課題を考察する。Ⅰにおける査定研究では、心理テスト・面接・観察による査定および精神障害の分類枠としてのDSMについて考究する。また、心理テストの信頼性・妥当性・データの処理について吟味する。面接研究では、心理療法の主要なアプローチについて、その人間観・人格理論・病理論・援助目標・援助関係・援助技法・適用疾患ならびにその課題について比較・検討する。さらに、援助過程・援助成果に関する研究結果を考察する。
臨床心理査定・面接研究Ⅱ		臨床心理査定・面接研究Ⅱにおいては、査定・面接の実務面に熟達し、その課題を吟味する。具体的には、自分が実際に担当したインテーク面接事例・臨床アセスメント事例・援助介入事例・終結事例などについて、事例の見立て、援助方針（目標・方法・治療構造）の設定、展開のし方（ケース・マネジメント、転移・抵抗の扱い）、終結のあり方などに関して、スーパーヴィジョンやケース・カンファレンスを通して検討する。そして、その成果を事例研究論文として作成し、学会発表・専門誌への投稿を目指す。
臨床心理学研究Ⅰ		臨床心理学研究は、基礎と実践をつなぐ総合的な研究領域である。その対象は、個人とその個人を取り巻く関係性における様々な現象である。臨床心理学研究Ⅰでは、そうした現象のメカニズムを解明するとともに、その現象に対する臨床心理学的介入や支援について研究する。ここでは、研究仮説の妥当性や研究対象として選択した現象の妥当性、その解明に必要な方法論について十分な検討を行う。次に実際に調査研究、実験研究、実践研究などを行い、必要なデータを収集する。
臨床心理学研究Ⅱ		臨床心理学研究Ⅱでは、臨床心理学研究Ⅰで行った調査研究や実験研究、実践研究などで得られたデータの分析を通して研究結果を考察する。結果は、目的と仮説を適切に反映するように論理的に展開する。考察では、従来の知見との整合性や新たな知見などに基づいて仮説の妥当性について検討する。さらに、従来の研究とは異なる知見や新たに発見された知見に基づいて、新たな理論的枠組みの創造や介入方法の可能性について検討する。
人格心理学研究	田中 志帆	本講義では、臨床現場における人格理解、アセスメント技量の向上を目的とする。特に、複数のテストバッテリーから得られた心理検査の結果を総合して、その人となりを拾い上げていく力を高めることに重点を置く。講義では、①精神分析理論をベースにした人格理解、アセスメントを行うことができるような知識の習得を目指す。②分離体験をする幼児観察のVTRから、対象関係論的視点で、人格の成り立ちや子どもの心の変容を理解する。③心理検査からその人となりを理解する。検査は投映法、インベントリー式人格検査（特にMMPI）、知能検査・記憶力検査も含める。④著名人のパトグラフィー（病跡学）を試みる。
教育心理学研究	谷島 弘仁	教育心理学の研究対象は焦点の当て方により認知的側面、情緒的側面、社会的側面の3側面に大きく分類することができる。この授業では情緒的側面に焦点を絞って講義と演習を行う。具体的には児童や生徒の学習への動機づけについて詳細に検討していく。とくに、児童や生徒が動機づけを失う原因について内外の研究を参照しつつ検討し、動機づけを取り戻すために効果的な働きかけについて考察する。児童・生徒の動機づけだけでなく、保護者や教師がどのように対応すれば効果的なのかについても考察し、学校臨床への方向づけも併せて目標とする。
異常心理学研究	池田 暁史	心理臨床において、重要な柱の一つである、異常心理について検討を加える。具体的な事例をとりあげ、発達論的、家族論的、生理論的、疾病論的、人格論的、力動論的、社会論的、文化論的な観点から、多角的に考察を加えることで、臨床的な洞察力の向上を目指す。

授業科目の名称	担当者	授業科目設定のねらいと概要
心理療法研究Ⅰ (遊戯療法)		2020年度非開講
心理療法研究Ⅱ (箱庭療法)		2020年度非開講
心理療法研究Ⅲ (認知行動論)	岡田 齊	この授業は認知行動療法の基礎的メカニズムの理解と実践力を高めることをねらいとする。受講者の興味関心に応じて最新の論文を選び、輪読するスタイルを進める予定である。最新の論文は英語であることが多いので、英語で論文をある程度読解できることを前提とする。
心理療法研究Ⅳ (統合的心理療法)		2020年度非開講
心理療法研究Ⅴ (スーパービジョン技法)	布柴 靖枝	公認心理師・臨床心理士の訓練に欠かせないスーパービジョンについて、理論的かつ実践的に習得する。①スーパービジョンに関する理論・モデル、スーパーヴァイザーとスーパーヴァイジーの関係、スーパーヴァイザーの適格性、スーパーヴァイジーの発達段階、スーパービジョンの課題・方法・倫理等について学習する。②上記の知見を活かして、スーパービジョンロールプレーを行い、実践的に学ぶ。